

流通とSC・私の視点

2014年8月30日

視点(1857)

世界の秩序と経済力・軍事力とは!!

(流通経済編)

世界には強国と弱国があり、この差は、基本的には「経済力」と「軍事力」で現すことができます。強国は世界の秩序を保ちリーダーシップをもって君臨します。このパワーを「覇権」と言い、覇権を持っている国を「覇権国家」と言います。

現在、世界の覇権国家は「アメリカ」で、経済の面でも軍事面においても、アメリカ以外の国はアメリカの存在を意識せずに行動をとることはできません。私はSCのことを覇権業態と呼んでいます。SCはアメリカでは小売業の売上の61%、日本でも21%(近未来においては30%)を占めており、百貨店やGMSや 카테고리キラーや専門店や飲食・サービス店やエンターテインメント施設は、SCを意識せずに行動をとることができます。それゆえに、SCは流通の覇権業態と呼ばれているわけです(六車流：流通・マーケティング理論)。

話を元に戻しますが、世界の秩序形成のためには、強国が経済力と軍事力と外交力(軍事力及び経済力を背景にした外交力)により他の国に影響を及ぼす必要があります。世界が群雄割拠では無秩序な戦国時代状態になります。

世界の経済力と軍事力を基にした覇権国家(強国の中のリーダーシップと強い他国への影響力を持つ国)の歴史を見ると次の通りです。

近代世界の覇権国家はポルトガル→スペイン→オランダ→イギリス→アメリカへと進んでいきます。イギリス以降の覇権国家は次の通りです。

	覇権国家	内 容		アメリカの位置づけ
		経済面	軍事面	
1700年代~1918年 (約150年間)	イギリス	イギリス	イギリス	発展途上国及び新興国
1919~1945年 (26年間)	列強 (アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、ソ連、日本の群雄割拠)	アメリカ	アメリカ、イギリス、ドイツ、日本	モンロー主義の時代 (先進国)
1946~1991年 (45年間)	アメリカとソ連	アメリカ	アメリカとソ連	冷戦時代の一方の雄
1992~2020年 (28年間)	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカは世界の警察の時代
2021年~? (?)	アメリカと中国	アメリカと中国	アメリカと中国・ロシア	第2冷戦時代の一方の雄 (第2モンロー主義)

アメリカとソ連は、第2次世界大戦以降は2大国として自由主義国家群と共産主義国家群として対立(冷戦状態)しつつ共存共栄体制を築いていきました。共産主義国家は本来の弱者を守るというプロレタリアート思考から乖離し、思想的に国民を弾圧し、かつ非合理的な国営企業体制、さらには特権階級化した共産黨員、さらに軍事力に突出した覇権国家となり、最後には軍拡競争に経済力の弱さから破れ、かつ国民の反発を招き共産帝国主義(赤色帝国主義)は1991年に崩壊しました。

1991年以降は、ソ連が消滅したため、世界の覇権国家はアメリカのみになり経済力及び軍事力で突出し、世界の警察としてアメリカ主義による秩序を保ってきました。しかし、アメリカ主義に反発する反アメリカ国家が部分的に出現し、アメリカは軍事的に制圧する戦争を何回も起こしました。

今、このアメリカ一国のみの覇権国家としての世界体制が崩れようとしています。

すなわち、中国の飛躍と中国のロシアへの親密化です。2021年以降は、アメリカと中国は経済的にも軍事的にも対等レベルとなり、さらに中国とロシアが接近することにより、「アメリカを基軸とする連合(日本・EU)」と「中国・ロシアを基軸とする連合」の2大勢力ができます。その結果、中国・ロシアの拡大路線とアメリカのモンロー主義化による2大連合の冷戦状態が再び起こります。ただし、中国の現状政治体制の崩壊が近未来に起こる可能性があります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺₆

代表 六車 秀之